

(表6)

## 一般病床と療養病床のマンパワー比較

|    | 一般   | 療養   |      |
|----|------|------|------|
| 看護 | 10:1 | 20:1 | 10:1 |
| 介護 |      | 20:1 |      |

\* 看護・介護を合わせた配置数では、  
一般病床と療養病床は同じスタッフ数である。

(表7) 重症度・看護必要度に係る評価票(A)

(配点)

| A モニタリング及び処置等 |   | 0点   | 1点   |
|---------------|---|------|------|
| 1             | 創傷処置                                      | なし   | あり   |
| 2             | 蘇生術の施行                                    | なし   | あり   |
| 3             | 血圧測定                                      | 0~4回 | 5回以上 |
| 4             | 時間尿測定                                     | なし   | あり   |
| 5             | 呼吸ケア                                      | なし   | あり   |
| 6             | 点滴ライン同時3本以上                               | なし   | あり   |
| 7             | 心電図モニター                                   | なし   | あり   |
| 8             | 輸液ポンプの使用                                  | なし   | あり   |
| 9             | 動脈圧測定(動脈ライン)                              | なし   | あり   |
| 10            | シリンジポンプの使用                                | なし   | あり   |
| 11            | 中心静脈圧測定(中心静脈ライン)                          | なし   | あり   |
| 12            | 人工呼吸器の装着                                  | なし   | あり   |
| 13            | 輸血や輸液製剤の使用                                | なし   | あり   |
| 14            | 肺動脈圧測定(スワンガンツカテーテル)                       | なし   | あり   |
| 15            | 特殊な治療法等(CHDF, IABP, PCPS, 補助人工心臓, ICP測定等) | なし   | あり   |
|               |   |      | A得点  |

注) 重症度・看護必要度に係る評価票の記入にあたっては、「重症度・看護必要度に係る評価票 評価の手引き」に基づき行うこと。

Aについては、評価日において実施されたモニタリング及び処置等の合計点数を記載する。

Bについては、評価日の状況に基づき判断した点数を合計して記載する。

<重症度・看護必要度に係る基準>

モニタリング及び処置等に係る得点(A得点)が3点以上、または患者の状況等に係る得点(B得点)が7点以上。

(表8)

## 重症度・看護必要度に係る評価票(B)

(配点)

| B 患者の状況等 |                    | 0点        | 1点                  | 2点   |
|----------|--------------------|-----------|---------------------|------|
| 16       | 床上安静の指示            | なし        | あり                  |      |
| 17       | どちらかの手を胸元まで持ち上げられる | できる       | できない                |      |
| 18       | 寝返り                | できる       | 何かにつかまれば<br>できる     | できない |
| 19       | 起き上がり              | できる       | できない                |      |
| 20       | 座位保持               | できる       | 支えがあれば<br>できる       | できない |
| 21       | 移乗                 | できる       | 見守り・<br>一部介助が必要     | できない |
| 22       | 移乗方法               | 介助を要しない移動 | 介助を要する移動<br>(搬送を含む) |      |
| 23       | 口腔清潔               | できる       | できない                |      |
| 24       | 食事摂取               | 介助なし      | 一部介助                | 全介助  |
| 25       | 衣服の着脱              | 介助なし      | 一部介助                | 全介助  |
| 26       | 他者への意思の伝達          | できる       | できる時と<br>できない時がある   | できない |
| 27       | 診療・療養上の指示が通じる      | はい        | いいえ                 |      |
| 28       | 危険行動               | ない        | ある                  |      |
|          |                    |           |                     | B得点  |

注) 重症度・看護必要度に係る評価票の記入にあたっては、「重症度・看護必要度に係る評価票 評価の手引き」に基づき行うこと。

Aについては、評価日において実施されたモニタリング及び処置等の合計点数を記載する。

Bについては、評価日の状況に基づき判断した点数を合計して記載する。

<重症度・看護必要度に係る基準>

モニタリング及び処置等に係る得点(A得点)が3点以上、または患者の状況等に係る得点(B得点)が7点以上。

(表9)

## 医療療養病床の役割

- 救急及び高度急性期医療の継承
- 高度慢性期病床
- 亜急性期病床の療養病床への適応
- 回復期リハ病床
- 維持期慢性期病床
- 地域医療支援センター機能
- 在宅連携

## 日本慢性期医療協会 三次救急指定病院を対象とした療養病床との連携に関するアンケート集計結果

実施：平成20年年8月

調査対象：3次救急指定202病院

回答：73病院

### 1. 病床種別と機能について

(表 10-1) 貴院のベッド数とその種別を教えてください。

|                | 総病床数   | ①救急病床 | ②一般病床  | ③医療療養病床<br>(回復期リハ<br>を除く) | ④回復期<br>リハ病床 | ⑤介護療養<br>病床 | ⑥精神病床 | ⑦その他 |
|----------------|--------|-------|--------|---------------------------|--------------|-------------|-------|------|
| 合計 (病床数)       | 50,551 | 2,145 | 43,919 | 43                        | 153          | 0           | 2,019 | 611  |
| 総病床数に対する割合 (%) | 100.0  | 4.2   | 86.9   | 0.1                       | 0.3          | 0.0         | 4.0   | 1.2  |

(表 10-2) 貴院の特徴は次のどれに当てはまりますか。(n=73) (複数回答)

|            | 病院数 | %    |
|------------|-----|------|
| 特定機能病院     | 18  | 24.3 |
| 地域医療支援病院   | 19  | 25.7 |
| DPC適用の一般病院 | 40  | 54.1 |
| その他        | 5   | 6.8  |

## 2. 入退院について

(表 11-1) 平成 19 年度における貴院の一般病床入院患者の平均在院日数は何日ですか。(n=73)

|    |           |
|----|-----------|
| 合計 | 1,113.3 日 |
| 平均 | 15.3 日    |

(表 11-2) 平成 19 年度の救急外来患者数は何名でしたか。そのうち、75 歳以上は何名でしたか。(n=49)

|               | 救急外来患者総数 | うち 75 歳以上 |
|---------------|----------|-----------|
| 合計 (人)        | 921,378  | 145,054   |
| 75 歳以上の割合 (%) | —        | 15.7      |

(表 11-3) 平成 19 年度の救急外来患者のうち入院された方は何名でしたか。そのうち、75 歳以上は何名でしたか。(n=47)

|               | 救急外来のうち<br>入院した患者総数 | うち 75 歳以上 |
|---------------|---------------------|-----------|
| 合計 (人)        | 141,647             | 43,560    |
| 75 歳以上の割合 (%) | —                   | 30.8      |

(表 11-4) 退院先が確保できないために救急患者の入院が延長することがありますか。

|    | 病院数 | %     |
|----|-----|-------|
| ある | 61  | 87.1  |
| ない | 9   | 12.9  |
| 計  | 70  | 100.0 |

(表 11-5) 平成 19 年度中に、救急患者の受け入れを断らざるをえないことがありましたか。

|      | 病院数 | %     |
|------|-----|-------|
| あった  | 56  | 76.7  |
| なかった | 17  | 23.3  |
| 計    | 73  | 100.0 |

\* 救急患者の受け入れを断らざるをえないことがあった場合の一月平均患者数 (n=40)

|                 | 合計        | 平均     |
|-----------------|-----------|--------|
| 受け入れを断った一月平均患者数 | 2,247.3 人 | 56.2 人 |

(表 11-6) 「救急患者の受け入れを断らざるを得ない」と回答された方にお尋ねします。その理由はなんですか。

(n=55) (複数回答)

|                                | 病院数 | %    |
|--------------------------------|-----|------|
| 医師、看護師などの職体制度が不十分              | 19  | 34.5 |
| 診療設備の問題                        | 6   | 10.9 |
| 後送病院（療養病床など）との連携不十分のため空きベッドがない | 15  | 27.3 |
| 院内の病床管理が不十分のため空きベッドがない         | 18  | 32.7 |
| 経営上の問題                         | 1   | 1.8  |
| その他                            | 32  | 58.2 |

(その他の内容)

- ・重症患者対応中 ・複数の救急車対応のため ・手術中で受け入れ困難 ・満床のため
- ・重症患者の重複 ・ICU 満床 ・専門外 ・緊急性のない患者のため
- ・二次病院への搬送指示 ・特殊患者（暴言、暴力、未収金など） ・一時的な患者の集中

### 3. 療養病床との連携について

(表 12-1) 平成 19 年度に救急病床の患者を直接「他院の療養病床」に移されましたか。

|        | 病院数 | %     |
|--------|-----|-------|
| 移した    | 40  | 59.7  |
| 移していない | 27  | 40.3  |
| 計      | 65  | 100.0 |

\* 救急病床の患者を直接「他院の療養病床」に移した年間人数

|     |       |      |
|-----|-------|------|
| 合計  | (人)   | 993  |
| 平均  | (人)   | 33.1 |
| 回答数 | (病院数) | 30   |

(表 12-2) 平成 19 年度に一般病床から「他院の療養病床」に患者を移されましたか。

|        | 病院数 | %     |
|--------|-----|-------|
| 移した    | 68  | 97.1  |
| 移していない | 2   | 2.9   |
| 計      | 70  | 100.0 |

\* 一般病床から「他院の療養病床」に移した年間人数

|     |       |        |
|-----|-------|--------|
| 合計  | (人)   | 10,588 |
| 平均  | (人)   | 220.6  |
| 回答数 | (病院数) | 48     |



(表 12-3) 今後、療養病床との連携を強める必要を感じていますか。

|        | 病院数 | %     |
|--------|-----|-------|
| 感じている  | 71  | 100.0 |
| 感じていない | 0   | 0.0   |
| 計      | 71  | 100.0 |

(表 12-4) もし、あなたの地域で急性期病院と療養病床との間に連携システムを作ることになれば、参加されますか。

|            | 病院数 | %     |
|------------|-----|-------|
| 積極的に参加したい  | 60  | 83.3  |
| 条件付きで参加したい | 8   | 11.1  |
| 参加したくない    | 1   | 1.4   |
| その他        | 3   | 4.2   |
| 計          | 72  | 100.0 |

(表 12-5) 救急外来患者のうち療養病床での治療が可能と考えられる疾患を選んで下さい。(n=70) (複数回答)

|                       | 病院数 | %    |
|-----------------------|-----|------|
| 誤嚥性肺炎                 | 39  | 55.7 |
| 腰椎圧迫骨折 (保存的治療)        | 63  | 90.0 |
| 脱水                    | 54  | 77.1 |
| 尿路感染症                 | 49  | 70.0 |
| 終末期を迎え介護施設から搬送されてきた患者 | 60  | 85.7 |
| その他                   | 5   | 7.1  |

(表 12-6) 高齢者が誤嚥性肺炎などで救急外来に搬送された場合、急性期医療側の判断で療養病床に入院を委託することについてはどのようにお考えですか。

|                       | 病院数 | %     |
|-----------------------|-----|-------|
| できる範囲で積極的に行うべき        | 50  | 71.4  |
| 療養病床の人員、設備の点から行うべきでない | 7   | 10.0  |
| 受託できる範囲に療養病床がない       | 6   | 8.6   |
| その他                   | 7   | 10.0  |
| 計                     | 70  | 100.0 |

(表 12-7) 介護保険施設（老健、特養）あるいは在宅療養中の要介護認定者の方に急性期医療が必要になった場合、その一部を療養病床が担うことについてはどのようにお考えですか。

|                       | 病院数 | %     |
|-----------------------|-----|-------|
| できる範囲で積極的に行うべき        | 54  | 80.6  |
| 療養病床の人員、設備の点から行うべきでない | 9   | 13.4  |
| 受託できる範囲に療養病床がない       | 2   | 3.0   |
| その他                   | 2   | 3.0   |
| 計                     | 67  | 100.0 |

(表 12-8) 急性期病院における 3 次救急の支援的機能を「他院の療養病床」に求めるならば、どのようなことが必要だとお考えですか。  
 下記からお選び下さい。(n=71) (複数回答)

|                            | 病院数 | %    |
|----------------------------|-----|------|
| すみやかな転院の仕組み                | 63  | 88.7 |
| 一貫した治療方針の継続                | 28  | 39.4 |
| 療養病床の医療技術の向上               | 47  | 66.2 |
| 転院後の治療に関するコンサルタントとシステム作り   | 34  | 47.9 |
| 急性期・療養病床相互の正確な病院機能・医療情報の伝達 | 54  | 76.1 |
| 治療成績のフィードバック               | 17  | 23.9 |
| 逆紹介システム                    | 26  | 36.6 |
| 在宅支援の力の向上                  | 35  | 49.3 |
| その他                        | 4   | 5.6  |